

◎稲作だよりNo.4 ポイント

- ・早めに中干しを開始して、生育過剰を抑制しましょう！
- ・素早く入排水ができるように、溝切りを実施しましょう！

1. 中干しと溝切りについて

中干し開始頃には1日約8本も茎が増えます。

去年は籾数が多く、高温で品質低下しやすい稲姿で
生育調節の効果はいまひとつ。
中干し開始が若干遅かったことが反省点でした。



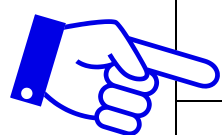
早目を開始することで、生育や籾数の過剰を防止することができます。
また、梅雨入り前にしっかり干すことで、地耐力を確保できます。

①中干しは「田植え1ヶ月後を目安」に開始しましょう。

- ・中干しを行っても、茎数の増加が完全に停止するわけではありません。生育不良ほ場や、茎数が増えにくいほ場でも中干し開始時期は変えず、終了時期を早めて対応してください。

※新潟次郎（飼料用米）については、栽培ごよみ通り田植え後35日を目安に開始しましょう。

【田植え日による中干し開始時期の目安】



田植え日	5月10日頃	⇒	中干し開始	6月10日～
田植え日	5月15日頃	⇒	中干し開始	6月15日～

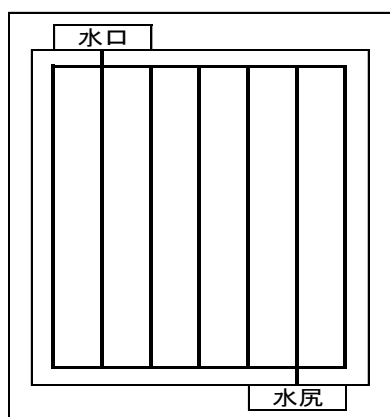
◎田植え日が5月20日以降のほ場は、6月15日から中干し開始しましょう！

②中干しの強さ、終了時期

- ・田面に小ヒビが入り（右図参照）、足跡がついて歩ける程度が強さの目安です。ヒビが入り始めたらかん水を開始し、過度の土壤乾燥によって大ヒビが入らないように注意しましょう。
- ・水源が乏しいほ場の場合には、中干しを弱めに行いましょう。
- ・遅くとも出穂1か月前には中干しを終了しましょう。終了時期が遅くなりすぎると、根の伸びが悪くなり出穂後の栄養凋落を招きます。



《小ヒビのイメージ》



《溝切りのイメージ図》

③溝切りの実施

- ・中干し後の水管理や、緊急時（フェーン現象時のかん水・長雨時の排水など）の水管理を迅速かつ効率的に行うために溝切りを実施しましょう。
- ・10条おきを目安に溝を切り、水口・水尻と溝を連結させて確実に水が流れるようにしましょう。

2. 飽水管理（中干し以降の水管理）

- ・中干し以降は、田面の足跡や溝に水がたまる程度の水分量を保てるよう、随時入水を行ってください。



- ・水持ちが良いほ場では、自然に水が減るまで待たず、落水して水の入れ替えを行いましょ。湛水状態が長期間になると根腐れの原因になります。

3. 病虫害防除

- ・斑点米の原因となるカメムシ類の増殖を防ぐため、畦畔の除草を行いましょ。
- ・いもち病の発生予防のため、補植苗の撤去を確実にお願いします。また、いもち病が発生した場合は至急、下記のお問い合わせ先まで報告をお願い致します。

※特別栽培米に取り組んでいる方は、成分回数の上限を超えないように薬剤使用前に確認をお願いします。

4. 雑草防除

- ・高温気象や多肥栽培では、雑草の生育が早まる可能性があります。ほ場をよく観察し、雑草が多発している場合は遅れずに除草剤を散布しましょ。

※特別栽培米に取り組んでいる方は、成分回数の上限を超えないように薬剤使用前に確認をお願いします。

薬剤名	10aあたり使用量(散布液量)	使用時期(使用期限)	散布時の水位	適用雑草			
				ヒ(葉齢)	一年生雑草(イネ科以外)	ホタルイ	クグワイ
クリンチャー1キロ粒剤	1.0kg	移植後 7日～ノビエ4葉期(収穫30日前まで)	3～5cm	4～5まで	×	×	×
	1.5kg	移植後 25日～ノビエ5葉期(収穫30日前まで)					
バサグラン粒剤	3～4kg	移植後 15日～55日(収穫60日前まで)	落水かごく浅水	×	◎	◎	◎
クリンチャーバスME液剤	1000ml(70～100ℓ)	移植後 15日～ノビエ5葉期(収穫50日前まで)	落水かごく浅水	5まで	◎	◎	◎

(登録状況：H28.5.11 現在)

5. JA柏崎からのお知らせ

新しい中後期除草剤の提案 <多くの方々の悩みである中干し後の雑草対策を提案します。>

- ・ノミニー液剤（100ml） 使用時期：移植後 30日～クサネムの草丈 40cm以下（収穫 60日前まで）
クサネムに効く落水散布の液剤です。幼穂形成期以降は薬害の恐れがあるため使用しないでください。
- ・ワイドショット1キロ粒剤 使用時期：移植後 15日～ノビエ4葉期（収穫 45日前まで）
一年生雑草、ホタルイ、オモダカなど多くの雑草に対応！粒剤のため散布時は3～5cmの水が必要です。また、残効があるため適期の処理で中干し後の除草作業の省力化が見込めます。

詳しくは、JA 柏崎営農指導課の営農指導員までご連絡ください。

～農薬の安全使用を徹底しましょ～

1. 農薬を使用するときは、農薬使用基準（適用作物、使用量・回数・時期）を厳守する。
2. 防除前に、器具の洗浄、清掃が十分であるか確認してから使用する。
3. 農薬の散布に当たっては、飛散しないように風向きなどに細心の注意を払う。
4. 農薬の調整時や散布時には、手袋やマスク、長袖などを着用し、薬剤が直接触れないようにする。

中山間地版 No.4

次回発行日：6月19日
穂肥～水管理

柏崎地域農業振興協議会

柏崎市、刈羽村、中越農業共済組合、柏崎農業協同組合、柏崎土地改良区
柏崎農業普及指導センター（柏崎地域振興局農業振興部）

【お問い合わせ先】

全地区共通
JA 柏崎営農指導課 21-2095
柏崎農業普及指導センター 21-6263
南部高田、中央柏崎地区
JA 南部高田支店 22-5165
東部田尻、北部西中通、高柳
JA 東部田尻支店 35-8188
西山、刈羽地区
JA 刈羽支店 45-2255